

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 議会運営委員会
2. 視察期間 平成30年11月21日 から 平成30年11月22日 までの2日間
3. 視察先 兵庫県 西脇市
4. 視察項目 議会運営及び議会活性化について
5. 参加者 〔委員（議員）〕 徳永・森田・田中・森（竜）・今村・塩塚・平嶋 高口・境 〔同行〕 〔随員〕 前田
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 平成31年 1月 31日 報 告 者 徳 永 春 男 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

1. 兵庫県 西脇市の概要

人口 40,915 人 面積 132.44 k m² 一般会計：約 200 億円 議員定数：16 名
市制施行 平成 17 年 10 月 1 日（一市一町合併・西脇市、黒田庄町）

西脇市は兵庫県のほぼ中央部、東経 135 度と北緯 35 度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置。「へそ」周辺には、「日本へそ公園」が整備されており、公園内には、西脇市出身の世界的美術家・横尾忠則さんの作品を収蔵展示する「西脇市岡之山美術館」や経緯度をテーマとした「にしわき経緯度地球科学館」がある。また、200 年以上の歴史と伝統を誇る「播州織」。地域に根差した産業資源としてあらためて注目され、活性化に向けた様々な取り組みを展開中。

2. 視察事項の選定

議会運営及び議会活性化について

日本経済新聞社が全国 815 市区の議会を対象に議会改革や住民参加状況などを聞いた「議会活力度」調査で、西脇市は首位。議員定数などの基本事項、住民への情報公開、議会への住民参加、議会運営の 4 つの項目を数値化され総合的にトップ獲得。西脇市議会が最も力を入れている事項の一つは、執行部が提出する予算や条例など議案審議の充実。H24 年 12 月の議会基本条例制定後も、レベル・スキルアップに余念がなく、さらに「開かれた議会」を目指し積極的に取り組んでいる。



現在、大牟田市は人口減少や少子高齢化が進行する中、あらゆる分野での制度の変革が求められている。そのため、これからの議会のあり方・議会の活性化を図るために、さらには「開かれた議会」を目指すことが必要であり先進的な取り組みが参考になると考え、視察先として選定した。

3. 議会改革の取り組み

○西脇市におけるこれまでの改革の経過の概要について

平成 20 年 2 月 29 日、議員定数 20 名から 16 名に削減を求める陳情を受けたことが契機となり、議員定数の見直しを含めた議会改革を推進するため、平成 20 年 9 月 19 日に議会改革特別委員会を設置。以降、これまでに数多くの議会改革に取り組んできた。（現在は議会運営委員会で議会改革全般を統括）

（改革の内容一部抜粋）

① 議員定数の削減…平成 20 年定数 20 名から 18 名 平成 21 年 18 名から 16 名

- ② 一問一答方式…論点を明確にするため一般質問等に導入
 - ③ 反問権…市長等に議員の質疑に対する反問権を付与
 - ④ 長期欠席者の報酬削減…会議の欠席が 90 日を超える議員から報酬削減を行い、欠席期間の延長に応じて削減率を上げる条例「西脇市議会議員の報酬等の特例に関する条例」を制定
 - ⑤ 議員間討議…委員間の自由な討議を重視した活動・運営の実施
 - ⑥ 議員提出議案による条例制定…市民からの「地域医療を守る条例の制定を求める陳情」を所管する常任委員会で政策提言と位置付け調査し条例化を実現
- その他にも 18 項目もの改革あり。

○西脇市議会の目指す議会改革と実践例

(1) 市民参画制度「市民のみなさんにとって良い政策づくり」

- ① 議会報告会（議会と語ろう会）・課題懇談会の開催
- ② 請願者・陳情者の意見を聴く機会の創設
- ③ 高校生版議会報告会の開催

平成 29 年から市内の普通科、工業科、定時制の 3 つの高校を対象に、主権者教育の一環として高校生版議会報告会を始めた。

全議員が参加し、主権者教育や西脇市の概要、議会の取り組みなどについて説明後、班にわかれて、議員がファシリテーターを務め、地域課題をワークショップ形式で話し合う。

* テーマ

平成 29 年度 : 若者が拓く西脇の未来 (予算 : 2 万円)

平成 30 年度 : あなたが住んでいるまちが、30 年後どんなまちであってほしいですか? (予算 : 2 万円)

「高校生版議会報告会を終えての感想」 西脇高校 教諭より

○若者の政治的関心の低下が指摘される昨今、「自分たちの暮らすまちの未来」について真剣に議論する機会を得ることができ、本高校生徒にとって良い経験となった。

○市議会の方々と一緒になって議論したことは、高校生にとって良い刺激となった。

(2) (情報の共有)

- ① 会議録のインターネット公開・中継・録画配信
- ② 市議会ホームページの充実
- ③ 行政視察・研修等の報告書、議長交際費、政務活動費の収支報告・領収書を HP に記載
- ④ 議会だよりの充実・議会公式フェイスブックページの開設

(3) (議会機能強化)

- ① 西脇市議会基本条例の制定と条例の検証

年に一度の検証が条例に明文化されており、検証で課題を明らかにし改善

② 定例会反省会の実践

毎定例会終了翌日に議会運営委員会を開催し、前日までの定例会の反省会を行い問題点などの改善を図っている

また本会議場及び委員会室へのパソコン・タブレット等の持ち込みが可能

③ 議会における政策サイクルの導入

予算→決算→予算→決算というサイクル。年間を通して特定所管事務調査を徹底。一般質問の成課を常任委員会へ付託し政策実現へつなげる

④ 議員研修の充実

平成 26 年 4 月から新人議員の研修派遣を実施。このほか年 2 回以上の議員研修の実施。レファレンス機能強化のため市立図書館との連携

○その他

① 議場の開放…年 2 回講演会や子ども議会などの開催

② 議会 BCP の取り組み…西脇市議会災害マニュアルの策定

③ 議長・副議長立候補制度の導入…議場で所信表明しネット中継

4. 主な質疑・応答

質問：議会と語ろう会（議会報告会）の実施方法と出された意見の取扱いなど終了後の作業についてお聞きしたい。

回答：以前は小学校校区単位だったが、現在はより小さい自治会単位とし年間 40 会場で実施。毎年 3 月と 9 月の定例会終了後、議会を 5 班（各班 3 名）にわけメイン班がファシリテーター、サポート班が記録や受付、報告書の作成を担当している。配付資料は原則共通だが地域によって課題が違うので必要に応じ各班で準備している。議会の活動状況や定例会等の審議状況報告が 10 分から 15 分程度。ワークショップ形式の意見交換を 40 分から 50 分程度としている。

報告会での意見要望のうち各班・各班長会議で調整したものを常任委員会で調査し、確認した結果やアンケートの分析結果などを報告書として取りまとめ、自治会長らへ配布・回覧してもらっている。



質問：平成 27 年 11 月からは名称「議会と語ろう会」として、従来の対面式議会報告会からワークショップ形式変更された。効果を聞きたい。

回答：対面式の頃の参加者の意見（アンケート）では、「意見交換が市政に活かされる気がしない。低レベル。話の順番が違う。市長の市政報告会を開いてください」

などの声が寄せられた。

現在のワークショップ形式の意見（アンケート）では、「議員さんと近くで有意義な話し合いができた。もう少しこういう会を増やしてほしい。議員さんも大変だなと肌で感じました。」との感想を聞くことが出来ている。非常に議論の活性化へつながり、自治会全てに拡大していきたい。

質問：議員がファシリテーター役を務めたり、政策提言や条例の制定など積極的に活動されているが、議員としての資質の向上をどのように図られているのかお聞きしたい。

回答：新人議員に関しては1人5万円の予算をつけ全国市町村国際文化研修所などに派遣するなど、調査研究することを身につてもらっている。また年2回以上の議員研修を行い、議会事務局職員が講師を務めるファシリテーション研修や周辺の3市1町と共同の周辺自治体議会研修などに取り組んでいる。基本条例の検証については課題解決のための講師を選定している。

質問：定例会終了翌日に議会運営委員会で前日までの反省会が行われるとのことだがどのような内容か。

回答：一般質問の成果を常任委員会へ付託し政策実現へつなげていることもあり、一般質問のあり方がどうであったか、また議長の議事進行はどうであったかなど意見を出し合っている。反省会で出た問題点や課題の改善が議会機能強化につながる。

質問：予算から決算、決算から予算という政策サイクルと行政評価のあり方についてお聞きしたい。

回答：予算については、その目的・課題は何かということを聞いておくことが大切であり、事業は課題の解決策であるということ。決算ではその課題が解決されているかという視点を持つこと。予算・決算前の委員間討議を行い、その中で一般質問で質問する内容や課題を説明している。資料請求に関しては市民にもわかりやすいものとし、事務事業評価の進捗状況は定例会ごとに報告を受けている。

5. 議員の所感

○日本経済新聞社が全国815市区の議会を対象に議会改革や住民の参加状況などを聞いた「議会活力度」調査で、首位となり、さらに「開かれた議会」を積極的に推し進めている。「議会と語ろう会」の開催及び開催時期については、毎年3月及び9月定例会終了後に、2カ月以内に開催されており平成27年11月からは、各自治会単位で開催。1回当たり20自治会を回り、2年間で市内全自治会において開催。市民の声を政策に反映させていこうとする姿勢に見習うものを感じた。本市においても議会報告会で出された意見・要望については分類し、議会質問のなか等で取り上げてはいるが、報告会そのものに対しては「行政の報告を聞いているような感じがする。もっと議会としての考えを聞きたい」などの声もあり、

議会報告会のあり方についても検証する時期にきていると感じた。

- 18 歳以上に引き下げられた選挙制度に、いち早く対応され、平成 29 年度から高校生版議会報告を開催。「地域や政治に関心を高めてもらう。主権者として権利を理解してもらう。地域への愛着を高めてもらう。」ことを目的に開催されていることは主権者教育の面からも意義深い。

高校生が論議しやすいようなテーマの投げかけ方が重要であるというアドバイスもいただいております、今後、本市でも関係委員会を中心に検討しながら取り組んでいきたい。

- 西脇市議会が最も力を入れているものは予算・決算の審査とのことだった。審査の前に、全議員で質問内容や論点を協議し、執行部との活発な質疑につなげているのは効果的ではないか。また、予算から決算、決算から予算への流れを踏まえて政策につなげるサイクルを確立。さらに、毎定例会後に議会運営委員会を開催し、発言の確認・質問のあり方を振り返り、反省会も実施。このほか会派ごとに毎月勉強会を開催したり、1 年生議員に別枠の研修費を設けるなど議員の資質向上に努められ、議会力の全体的な強化が図られていることに感銘を受けた。

- 支援者や地域、支持団体等からの意見・要望を議員が市長や執行部に要望し、市長が判断して執行するという仕組みが通常であり、議員でなくても自治会長などでも出来るが、西脇市では、議会と語ろう会などで出た意見・要望、支持者等からの意見・要望等を提案、議員間討議を経て議会として議決し、執行部や市長が判断して執行している「調査・議員間討議・議決」の活動サイクルに自信と誇りを持っておられた。また事務局職員へ過度に負担が増えないよう、事務局と議会運営委員会で役割もすみ分けも行っているということだった。西脇市の「オール議会」での取り組みも十分参考にしながら、本市議会の議会改革に役立てたい。

- ご説明いただいた西脇市議会議長の「市民は政治に無関心でも無関係ではない」という言葉は非常に心に残った。議会報告会や議場での傍聴への参加数をどう増やしていくかなど市民の議会に対する関心度アップが、本市議会でも大きな課題であるが、広報広聴機能のさらなる充実に取り組む中、この言葉が一つのヒントになると感じた。